

人口政策と國民幼稚園

三 木 安 正

一、

大東亞の新秩序建設といふ大望を負ひながら、お米が無い、炭が無い等生活必需品の不足に顔色を變へ、ベルサイユ體制の破壊、さいふより世界新秩序建設の爲めに、列強の喰ふか喰はれるかの大爭覇戰に氣を吞まれた形で、未だに一億一心の肚を据へ兼ねてゐるのが、正直の處、吾々の氣持ではなからうか。

こんなことで良いと思ふ者は誰もあるまい、又世の中が急激に變りつゝあるさいふことは誰もが感じて居るだらう。結局、肚が据らぬさいふのは今までの日本人の頭にまつて問題が餘りにも大きすぎたのではないだらうか。

中央公論の四月號に小倉金之助氏が「現時局下に於ける科學者の責務」さいふ一文を寄せられてゐるが、そこに心ある科學者の反省の言葉として、小竹無二雄教授や菊池正士教授の書かれたものの一節が引用せられてゐる。

「日頃自分を賢い男だと思つたことも無いが、正直を言ふと、最近迄は、これ程の愚か者であるとも思つてゐな

かつた。と言ふのが本音である。

今年度の事變が起つてから滿三年が過ぎてゐる。……少しく賢い人々であれば、これ等の見聞から、我國のかくある可き事情や、諸々の眞の様が、略々推察し得た筈なのである。然るに最近折にふれて、様々の方面の眞の様が具體的に説かれ、教へられることが重なる迄は、たゞ漫然と：伊希戰爭程度の不安より持ち得なかつた、さいふ程度に近い物であつたことは否めない。

その證據に、私共は今に尙ほ安閑として毒の研究をし、米の胚芽油の成分の研究をし、ストリヒニシなる歐洲で百年來いじりまはした研究に没頭してゐるのである。

この愚かな私が、今母國が立つ眞の様を見て、只愕然としてゐるのである。……熟慮數月、今臺灣十五年の研究を放棄して、母國の急に參する覺悟だけは確に出来上りはしたが、扱て私は何をなすべきなのであらうか。」

(小竹教授)

この心底からの告白を讀んで、誰が小竹教授を愚か者と呼ぶことが出来るか。一體愚か者は誰であらう。

前書きが長過ぎると思はれたかもしれない。

しかし、以上は決して前書きではないので實を言へば、今私が原稿用紙に向つて考へてゐることは、人口政策論でもなければ、國民幼稚園論でもないのである。私は子供のことを研究しようと思してゐる者であるが、そこで何を爲すべきかをつかみたい。

小倉先生のやうな人であれば、「現時局下に於ける保育者の責務」でも題するこゝであらうが、それでは氣がひける。しかし、把かまへて行くものは大きなものでなければならぬ。人口政策に國民幼稚園を、いづれも、吾々の據て把握すべきものとして、現時局下に於て、小に失するといふことはあるまい。

二、

大正九年を轉機として、我國の出生率に低下の傾向が現はれ、この傾向を放置して置けば昭和七十五年を頂上(一億二千三百萬人)として、人口の自然増加は停止し、昭和百年には一億一千二百萬人に落ちて行く、しかもその時には、人口の年齢構成が、ピラミッド型であるが理想とするのに、ニコライ堂の屋根のやうに、中年以上の者が多くなり過ぎてしふさいふのが、人口學者の計算によつて示されてゐる。

これでは東亞の盟主として立つて行くことは、難かしくなるので、本年一月二十二日の閣議で、「人口政策確立要綱」をいふものが決定されたことは周知のことである。そこでは差當り内地人口を昭和三十五年に一億とするといふ目標が立てられたのであるが、この目的達成の爲めには、諸般の方策が實施せられねばならぬと共に、その基本は精神の問題に歸するを考へられてゐる。即、要綱の第三條に、右ノ目的(昭和三十五年人口一億)ヲ達成スル爲メ探ルベキ方策ハ左ノ精神ヲ確立スルコトヲ旨トシ之ヲ基本トシテ計畫スニあり。

一、永遠ニ發展スベキ民族タルコトヲ自覺スルコト。

二、個人ヲ基礎トスル世界觀ヲ排シテ家ト民族トヲ基礎トスル世界觀ノ確立、徹底ヲ圖ルコト。

三、東亞共榮圈ノ確立、發展ノ指導者タルノ矜持ト責務トヲ自覺スルコト。

四、皇國ノ使命達成ハ内地人口ノ量的及質的ノ飛躍的發展ヲ基本條件トスルノ認識ヲ徹底スルコト。

の四項が擧げられてゐる。ここで考へねばならないことは、色々な困難を乗り越えて、新しい方向に進むためには、制度或ひは組織の整備と共に、これを動かす精神が確立されねばならぬといふことで、經濟の新體制についても、それには新しい經濟倫理が基本にならねばならぬこと

いふこゝが唱へられてゐるやうに、すべての方面の仕事が、從來仕事に考へられてゐたこゝに、教育に考へられてゐたこゝが一つになつて行かねばならないといふこゝが判つきりとして來たこゝである。政治教育といふこゝも大分問題になつたこゝであるが、それは政治に教育が一體になるといふ處へ行かねばならないと思ふ。

人口問題にしても、この兩者が一體ならなければ、その目的は完遂するこゝが出来ぬであらう。こゝで、人口増加の方策として、色々なこゝがあげられてゐるが、その中に、現行學校制度の改革に就きては特に人口政策との關係を考慮するこゝ。高等女學校及女子青年學校等に於ての母性の國家的使命を認識せしめ保育及保健の知識、技術に關する教育を強化徹底して健全なる母性の育成に努むるこゝを旨とするこゝ、といふやうなこゝも記されてゐるが、前に記した精神の確立と合せ考へて、教育の分野といふものの考へ方が、從來の狭い考へ方を破つて、もつと廣い全般的なものならねばならぬこゝ、即國家目的の遂行の爲めのあらゆる分野に涉つてゐるといふこゝ、従つて小學校が國民學校へ進展したこゝを契機として、學校制度の改革はざん／＼すゝめられねばならぬし、こゝに人口政策に間近な關係をもつ就學前教育の改革は、從來甚だしく等閑に附されてゐた丈に、慎重な考慮と、餘程の馬力をもつて進め

られねばならぬに考へられる。

三

そこで、從來保育のこゝに關係してゐた者は、その系統如何に係はらず、幼稚園といはず、託兒所といはず、次代國民の育成に遭遇しなければならぬのであるが、そこに要請せられる機關は、幼兒保育に關しては、之を國民幼稚園として一元化すべきであり、その理念は本誌の毎號に涉り倉橋教授によつて説かれてゐる處である。元來フレーベルが幼稚園といふ名前を用ひたのは單に幼稚園といつたのではなく、"allgemein deutsch" (一般的獨逸的)といふ冠詞が附けられてゐたのであるから、之こそ幼稚園の本然のものへ歸るのだといつてもいいわけである。しかし、一元化といふこゝは單に名前の問題や監督系統の問題ではなく、保育事業を強力に發動せしめる必要から要求せられるこゝであつて、國民教育の素地を培ふといふ點に於て、母性教化の中心基地となるべき點に於て、國家が眞にその必要を認識し、之を國家の重大事として取上げるならば當然それは一元化されるはづのものなのである。ナチスドイツが前大戦的の極度の疲弊の中にあつて、まづ母子の問題を國家の重大事として取上げたこゝは今更言ふまでもないこゝであらう。

一元化といふこゝが名前や制度の問題丈に終るべきもの

ではなく、強力な活動の前提として考へねばならないといつたが、その活動の方向で、従来の幼稚園で缺けてゐた點は、所謂、幼稚園の社會教育的機能であることは誰でも考へるべきであらう。このことは例へば、惰性的に行はれてゐる都會の幼稚園では餘り考へないでも濟まされるかも知れないが農村保育所などに於ては、この機能を考へずしてはまづやつて行けないかも知れない。ここに農繁期保育所の場合に、それがよい効果を擧げるかさうかは、その地域の教化、理解の程度にかゝつてゐると思ふ。そのことはこの仕事を隣保組織の一環として考へねばならぬといふことを示してゐる。

都會に於てもこの原則は變るべきものではなく、幼稚園が、幼児にまつては、家庭から學校への橋渡しの處であり、又それが、社會教育的機能を充分に果すためには、地域との結び付きを必要とするのである。一回の家庭訪問も出来ないやうな、擴りこ、粗隔な結合では、社會教育的機能といふことも充分果せさうもない。

幼稚園がこのやうな地域的な基礎に立つて、その中につきりこ融け込み、それが汎く普及された暁には眞の國民幼稚園の名に價するであらう。

そして之の目標の達成の爲には、結局保育關係者が、保育の仕事を通じて社會に働きかけることが當面の問題であつて、國家的使命觀に立つて、兒童母性に關する指導者

しての教養を高めると共に、狭く閉された幼稚園の柵を取りはらつて、社會にまぎ込んで行く心構こそ、現時局下の保育關係者の責務であらう。

豆座談會 (一)

附屬幼稚園

私共倉橋先生陛下の保姆達が、日々の實際保育に當つての質問を、機會を捉へては先生に伺ふ。それを稱して豆座談會と言ふ。

國民學校と幼稚園

○保姆「よく參觀にいらした方から、國民學校になつてから幼稚園はどう變つたか、國民學校と幼稚園との關係はどうなつたか」と云ふやうな質問を受けますが、私共として、それに答へする腹を同じにして置き度いと思ふのですが」

倉橋「そう、それに就いて私はこう思つてゐます。

○國民學校になつてからは、生活體制を重んずるやうになつた。

○それから教科の統合と云ふことが行はれるやうになつた。

○それからいろいろの科目の規準と言ふものが決まつてきたから、幼稚園としてはそれと矛盾のないやうにしなければならぬ。

總じて言へば國民學校と幼稚園とは大變接近して來たのです。幼稚園がもつとよくいつてゐたなら、幼稚園のやうになつて來たと言へるのですけれどね」

K保姆「先生、只今のは純粹教育學の立場から誠にいとお話だと思ひますが、も一つあの、「皇國の道に歸一せしめる」と言ふことはどうなりませうか

倉橋「それ」。それが重大な問題です。こういう問題については、今年の夏、講習で話さうと思つてゐます」